

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	港区白金 3-2-9
園名	ちゃいんどはっぴっぴ！白金保育園

1 活動のテーマ

<テーマ>

色 x 文化

<テーマの設定理由>

色は月齢に関係なく視覚的に認識しやすく、文化的要素を取り入れることで、多様な感覚体験を通じて、年齢差のある子ども同士でも同じ活動を共有できる。

2 活動スケジュール

- 【①1月：干支の「馬」を色で楽しもう
- 【②2月：光と色の不思議を感じよう（セロファン × 光遊び）
- 【③3月：満開の桜を色でつくろう（絵の具 × 画用紙 × 紙吹雪）

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のため干支の「馬」を題材とし、段ボールで作成した馬の型を用意した。活動では、筆・ローラー・スポンジ等の様々な道具や複数色の絵の具を準備し、子ども達が自由に色や道具を選びながら表現できる環境を整えた。また、机上だけでなく十分な制作スペースを確保することで、子ども達が安心してのびのびと活動できるよう配慮した。にどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

4 探究活動の実践

<活動の内容>

日本の文化である干支に親しむことを目的として、干支の「馬」をテーマに制作活動を行った。段ボールで作った馬の形に絵の具を使って色を付けたり、スポンジやローラー等の道具を使って模様をつけたりすることで、色の広がりや重なりを楽しみながら制作を進めた。活動を通して、色の違いや混ざり合いに気付きながら、自分なりの表現を楽しむことができた。

子ども達は様々な色や道具に興味を示し、繰り返し色を塗ったり道具を試したりする姿が見られた。また、友達が行っている様子を見て同じように試そうとする姿や、異なる色の組み合わせを楽しむ様子が見られた。保育者は子ども達の表現や気付きを受け止め、「きれいな色だね」「いろいろな模様ができたね」等と声を掛けながら関わることで、子ども達の表現意欲や友達との関わりを促した。(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

干支という日本の文化に触れながら色を使った表現活動を行うことで、子ども達が色や道具への興味を深め、自分なりの表現を楽しむ姿が多く見られた。また、友達の活動の様子に関心を持ち、同じように試そうとする姿から、集団の中での関わりや学びの広がりを感じることができた。今後も文化的な題材を取り入れながら、子ども達の興味や発見を大切に活動を進めていきたいと考えている。

